

学校教育目標		中・長期的目標	総合評価					
○自主性を養う。 ・自らより高い価値を創造しようとする力をつける。	(願う生徒の姿)	挨拶の行き交う学校に 清掃に打ち込む学校に 学習に集中する学校に	歌声の響く学校に 時を守る学校に 読書に親しむ学校に	学習指導の面では、生徒・保護者のアンケート結果からわかりやすい授業になってきていることは伺えるが、家庭学習については一律に宿題を課すことを見直した結果、生徒が自分でやりたいと思える学習に取り組めた反面、継続的に学習に取り組む機会が得られなかった。来年度、家庭学習が習慣化できるよう重点的に改善を図ってきたい。生活・生徒指導の面では、問題行動や不登校傾向生徒が減少しており、安心・安全な学校と捉える生徒・保護者が増加した。これからも生徒の様子を注視しながら、早期発見、早期対応に努めていきたい。保護者・地域との連携の面では、コロナ禍からできないのではなくコロナ禍でもできる形という視点を大切にして、保護者・地域との連携を密にし、生徒支援の充実を図ってきたい。				
		令和3年度 学校重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる生徒		①1人1台端末等のICTの活用、個に応じた支援、少人数学習等を通して「わかる」授業づくりに取り組む。 ②保護者、地域、外部機関と連携し、開かれた学校づくりや生徒支援の充実を推進する。 ③すべての生徒がそれぞれの個性を伸ばし、自分らしく生活することができる学年・学級づくりに取り組む。	①については、年度前期月曜放課後にICT研修を行い、職員会議で定期的に信州型UD研修を行うことで、生徒の学びの姿から互いの実践の良さや先行事例から学び合ってきた。その成果として、職員の授業改善への意識が向上し、わかりやすい授業になってきている。 ②については、コロナ禍でもできる形で学校開放を実施した。また、地域ボランティアの方々に学習支援や学校花壇の音植えなどをしていただき、生徒の成長や学びの大きいに尽力していただいた。 ③については、人権同和教育年間や各種行事を通して、いじめや差別を許さない雰囲気醸成され、自他ともに大切に生徒が増えてきた。		○	○	○	①ICT研修や信州型UD研修、そして授業相互参観を定期的に行い、子どもの学びの姿から互いに学び合える機会を設けていく。 ②コロナ禍においても、保護者・地域の方・外部機関の方との会合を可能な形で設けることで、生徒の成長や学びのために互いの連携を強めていきたい。 ③報告・連絡・相談を確実にし、複数の職員で方策を検討し、チームで対応していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校教育	学習指導	学習課題の明確化	本時の学習課題が明確で、生徒が意欲的に学べるものになっているか。 【設定方法、提示方法、提示後の生徒の取組】	学習課題を毎時間板書しよう意識したり、生徒の気づきや問いをもとに学習問題を設定したりするなど授業改善に取り組んだ職員が、昨年度よりも多くなっている。			○		研修の時間や授業相互参観を通して、生徒の姿をもとに互いの実践の良さに学び合うようにする。
		言語活動の充実	授業の中で話し合う場面(情報交換)を取り入れた授業を行っているか。	グループで話し合う場を1時間の中に位置付けたり、コロナ禍にあってもICTを活用して意見交換の時間を設けたりするなど対話的に学べるように工夫してきた。		○			自分の考えを深めたり広げたりできるように、対話的な学習活動を1時間の中で位置づけていく。また、コロナ禍においては、ICTを活用することで対話的な学びを推進していく。
		ICTを活用した授業づくり	1人1台端末等ICTを活用して資質・能力を効果的に育めるよう、教師が各自の課題をもって授業づくりに取り組むことができたか。	研修を定期的に行い、先行事例や互いの実践から学び合いながら、ICTを活用して生徒の資質・能力を効果的に育めるよう授業づくりを工夫する職員が多くなっている。			○		より効果的に資質・能力を育めるように、また、学習時間を効率的に運用できるように、ICT研修を通して互いの授業実践や先行事例から学び合うようにしていく。
		個に応じた学習支援	授業で視覚化、具体化等のUD化を推進しながら、個に応じた学習指導や補充・発展の支援をすることができたか。【数学科・英語科少人数学習】	職員会議の中で研修を定期的に行い、生徒の困り感に寄り添いながら合理的配慮を行った個に応じた支援を考え合っていた。			○		研修の時間の中で、個に応じた工夫している支援の方法を互いに紹介し合う時間を設けることで、若手の新たなアイデア、ベテランの経験知などから互いに学び合うようにする。
		家庭学習の定着	「授業と家庭学習のつながり」に視点を置いた課題により、自分自身で家庭学習の質を高めたいいけるよう継続的に指導できたか。	一律に宿題を課すことを見直した結果、生徒が自分でやりたいと思える学習に取り組めた反面、継続的に学習に取り組む機会が得られなかった。				○	「授業の予習・復習となる家庭学習」「個に応じた家庭学習」となるよう、試行段階での成果と課題をもとに年度当初のガイダンスで示していく。
学校教育	生活・生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の基本的生活習慣や健康を培う指導ができたか。 【元気アップの取組、遅刻への対応、家庭との連携状況】	生活委員による遅刻を減らす呼びかけや、保健委員や係職員による元気アップ体操・目の運動の実施により、生徒の生活習慣改善や健康保持を推進してきた。			○		生活リズムが不安定な生徒に、多くの職員で気を配り、声をかけていく。また、心身の健康を促すように、生徒会とタイアップしながら運動を推進する活動を企画、実施していく。
		認め合い、支え合える集団づくり	互いに認め合い、支え合える人間関係を育てる指導に取り組めたか。	人権同和教育年間や各種行事を通して、いじめや差別を許さない雰囲気醸成され、自他ともに大切に生徒が増えてきた。		○			人権同和教育、道徳教育を中心に、相手の立場に立って考え、自他の違いを認め合うことができているかどうか、折に触れて自分を見つめ直す機会を設けていく。
		不登校傾向生徒への支援・相談室の支援	一人一人の生徒の実態を把握し、チーム支援を進めることができたか。 【支援体制の明確化、支援会議、スクリーニング会議の定例化】	学級担任を中心に、副担任、係と多くの職員が関わり、チームで対応してきた。引き続き、早期対応のために、少しでも気になることや心配なことがあったら相談できる体制をつくっていく。			○		「誰がいつまでに何を」の視点で具体的な方策をともに考え合う。また、外部機関から助言をいただくスクリーニング会議も継続して実施していきたい。
		安全で安心できる学校	生徒が安全で安心して生活できる学校づくりに取り組んでいるか。 【生徒の声を吸い上げる体制の充実】	生徒の相談にのり即チームで対応することや、生徒をよく見て早期発見に努めてきたことで、安心・安全な学校と捉える生徒・保護者が、昨年度よりも約5%増えた。			○		生徒に何かあった場合、すぐに報告・連絡・相談をして対応を検討し、チームで動いていく。
		相談活動の充実	生徒にとって相談しやすい環境を整えられたか。【年3回の教育相談、なんでも相談室】	毎学期、1人10分ずつ相談の時間を設けたり、校長室や保健室を「なんでも相談室」にしたりすることで心配なことや悩みを相談しやすい環境づくりに努めてきた。			○		毎学期必ず相対する時間を設け、相談しやすい機会とするとともに、生徒と教師が語り合う中で大人に成長していく機会とする。
		生徒会活動・学年活動の充実	生徒が前面に出た活動につながるような支援ができたか。	生徒会で震災復興支援活動に参加したり、タブレットの運用の在り方を共に考える座談会を開いたりするなど、よりよい三中になるよう、生徒の自治活動を工夫してきた。			○		生徒会活動を、学校教育目標「自主性を養う」を具現化する重要な活動の一つとして捉え、生徒の活動を支援していく。
		気持ちのよい挨拶	教師が率先して挨拶し、生徒が気持ちのよい挨拶を交わしあうことができるよう取り組むことができたか。	挨拶の行き交う学校になるよう、職員から率先して挨拶をするようにしてきた。生徒会でも朝の挨拶間を設け、生徒自ら挨拶の輪を広げようとしている。			○		生徒による挨拶活動を大切にしながら、職員からまずその姿勢を示していく。
		清掃・環境整美への取り組み	身支度を整え、無言清掃に取り組み、校内・教室内の環境を整えることができる指導ができたか。	清掃の時間に黙々と校舎等をきれいにするだけでなく、朝の登校時に自主的に落ち葉掃きや雪かきに取り組む生徒の姿が見られるようになった。			○		生徒会とタイアップしながら、職員がその場だけでなく清掃に取り組んだり、清掃がない日でも自主的に環境を整えきれいにしたりする自主的な清掃活動になるようにしていく。
		学校開放日・体験入学等の実施	年3回の学校開放日や体験授業(新入生)等を通して、本校への理解や関心を高めてもらうことができたか。	コロナ禍ではあったが、各学年日を変えて授業参観を行ったり、Web会議アプリを使って学年・学級PTAを行ったりするなど工夫して実施してきた。			○		今年度同様、コロナ禍でもできる形で学校開放や中学校体験・説明会を実施していく。
学校運営	保護者・地域との連携	情報の発信	学校だよりや学年学級だより、ホームページ等を通して情報提供し本校の取組に関心を高めてもらうことができたか。	学校・学年だよりを定期発行したり、ホームページで随時学校の様子を伝えるなど情報発信に努めてきた。			○		定期的な学校だよりや学年学級だより、ホームページ等で学校の様子を伝えるだけでなく、保護者に生徒の成長や学びも伝えるよう内容工夫していく。
		地域との連携推進	地域と連携し、学習活動や生徒支援を工夫することができたか。【「三中応援団」、学生ボランティアの活用】	地域ボランティアの方による新JIGAKUのプリントの〇つけや添削と職場体験学習に向けた講演会をはじめ、学生ボランティアにも授業に参加していただき、個別に支援をしていただくなど生徒の学びに大いに尽力していただいた。			○		地域や学生ボランティアの方々からコロナ禍でも可能な形で支援をいただくなど学社連携を推進しながら、生徒の成長や学びに尽力していきたい。